

# 吹田市公共交通維持・改善計画の見直しについて

# 計画の概要

本計画は、公共交通等の維持・改善に関する考え方と実施する施策をまとめたものであり、市民・交通事業者・行政が共に支える、持続可能で利便性の高い公共交通ネットワークの実現を目的としています。

## ■ 基本理念

いまある公共交通を守り、多様な手段と連携し、  
みんなで支え未来へつなぐ公共交通

## ■ 計画期間

令和4(2022)年度～令和13(2031)年度

計画策定  
R4(2022)

中間見直し  
R8(2026)

計画見直し  
R13(2031)

## ■ 基本方針と具体的な取り組み

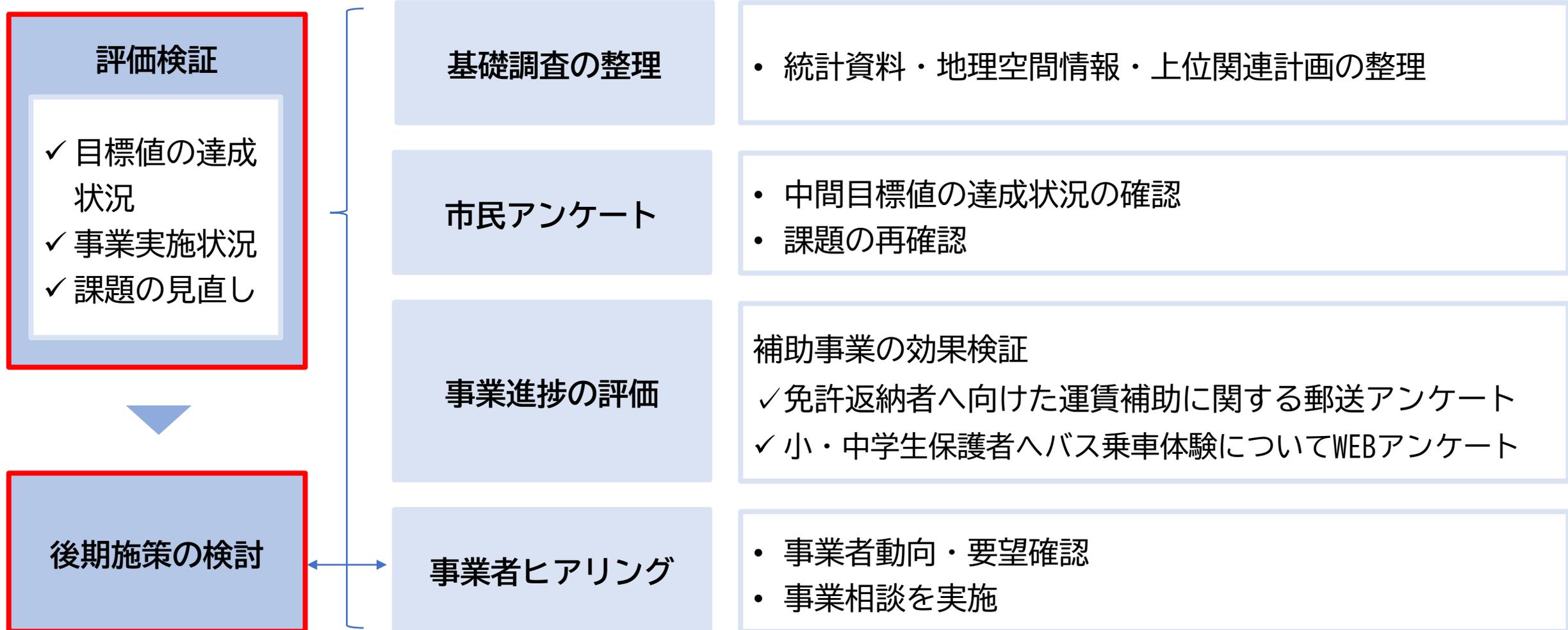
方針1	公共交通サービスの維持・充実と PRによる利用促進	事業1：公共交通サービスの維持・向上 事業2：運行情報の提供 事業3：利用サービスの提案 事業4：安全な公共交通事業の推進
方針2	市民・利用者に寄り添う 利便性の高い公共交通ネットワークの形成	事業5：バス路線の見直し 事業6：交通結節点の機能向上 事業7：地域コミュニティ交通の創出
方針3	共に支え、将来に向けた持続可能な仕組み づくり	事業8：公共交通の魅力の発信 事業9：担い手の確保 事業10：次世代交通システムの積極導入

# 評価検証の実施について

前回の協議会では、中間見直しとして評価検証の上、後期施策の検討実施を行うことを確認しました。

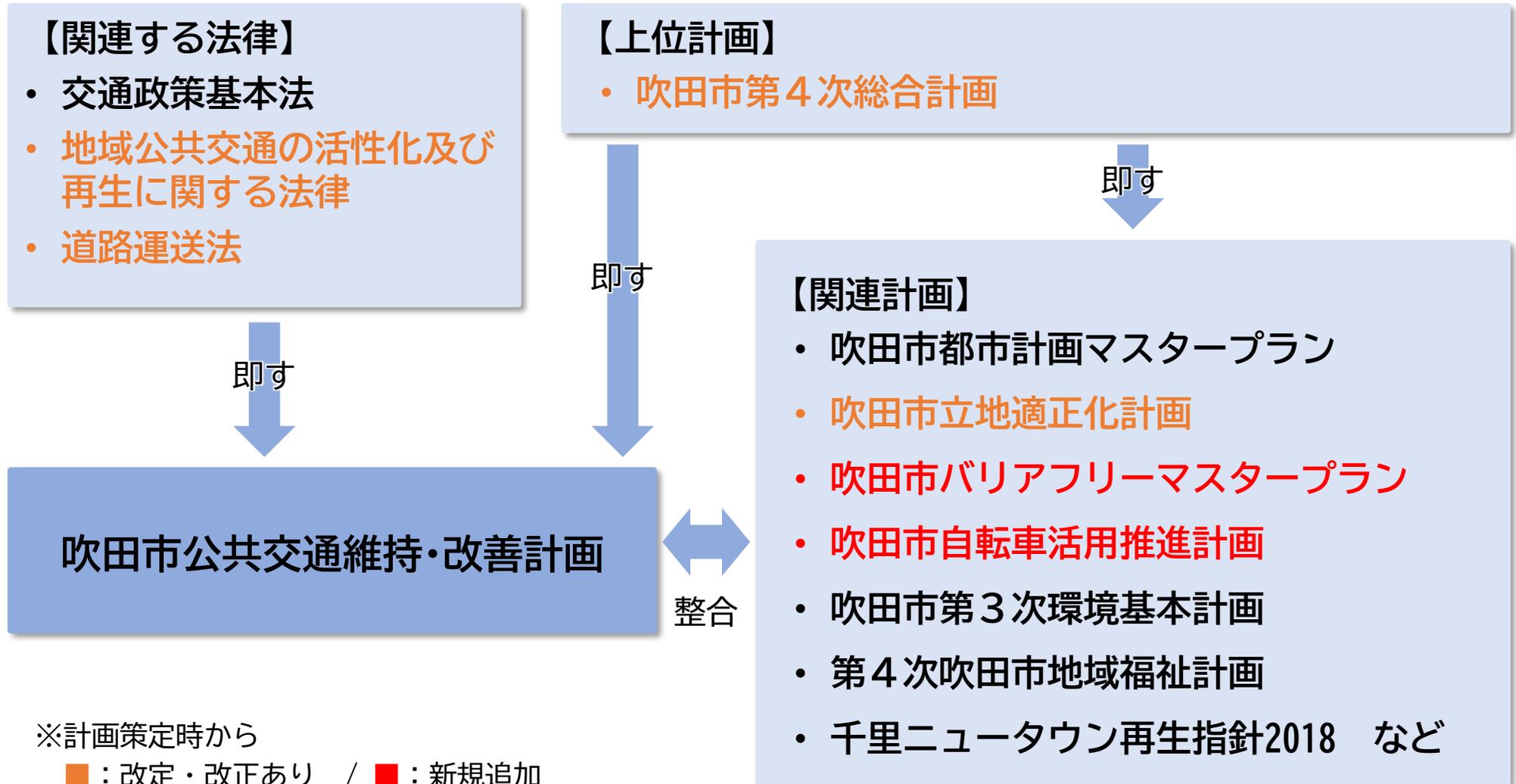
## 見直しの流れ

## 各種調査内容



# 上位関連計画について

上位関連計画の改定や新規策定を把握しましたが、本計画への影響がないことを確認しました。



# 計画の目標達成状況（算定方法）

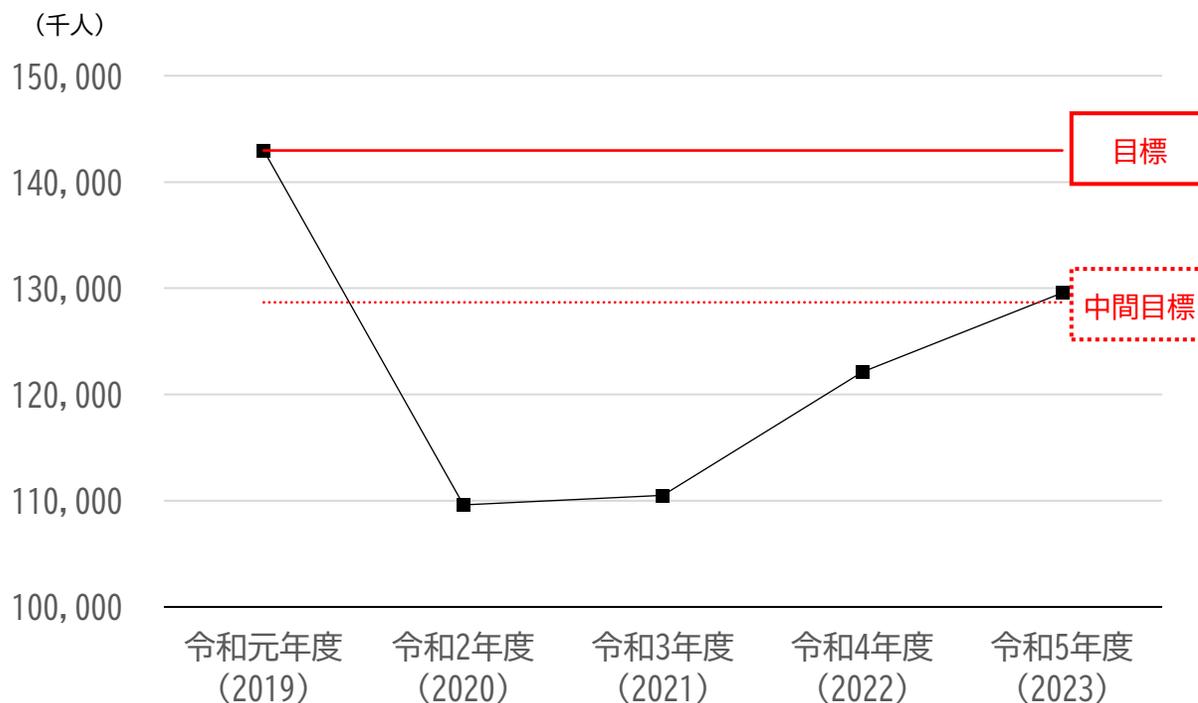
	目標	指標	指標の設定・算定方法
目標1	鉄道の利用者数の向上	鉄道利用者数	鉄道の利用者数を指標とし、毎年各交通事業者の統計値により把握
目標2	バスの利用者数の向上	バス利用者数	バスの利用者数を指標とし、毎年各交通事業者の統計値により把握
目標3	公共交通ネットワークの構築	公共交通による人口カバー率	国勢調査により公表された人口メッシュデータと市内の鉄道駅800m圏、バス停300m圏の範囲に含まれる人口割合を算出
目標4	交通結節点の機能の向上	乗換え動線のバリアフリー整備箇所数	鉄道駅からバス停までの乗換え動線上のエレベーター等によるバリアフリー整備の箇所数を指標とし、市が管理する毎年整備実績値により評価
目標5	利用環境の安全性 快適性の向上	バス停環境整備箇所数	ベンチや上屋を整備したバス停を「バス停環境整備箇所」として、その整備箇所数を指標とし、バス事業者への実績値のヒアリングにより評価
目標6	公共交通による 外出頻度の増加	外出頻度	市民アンケート調査の実施により外出頻度を問い、「週1～2日程度」以上の頻度の回答割合によって評価
		公共交通の分担率	国勢調査による交通手段の情報を整理して評価
目標7	公共交通の満足度	公共交通の満足度	市民アンケート調査の実施により公共交通全般の満足度を問い、「満足」と「やや満足」の回答割合によって評価

# 計画の目標達成状況（実績値の詳細）

## 目標1指標「鉄道利用者数」

(千人)

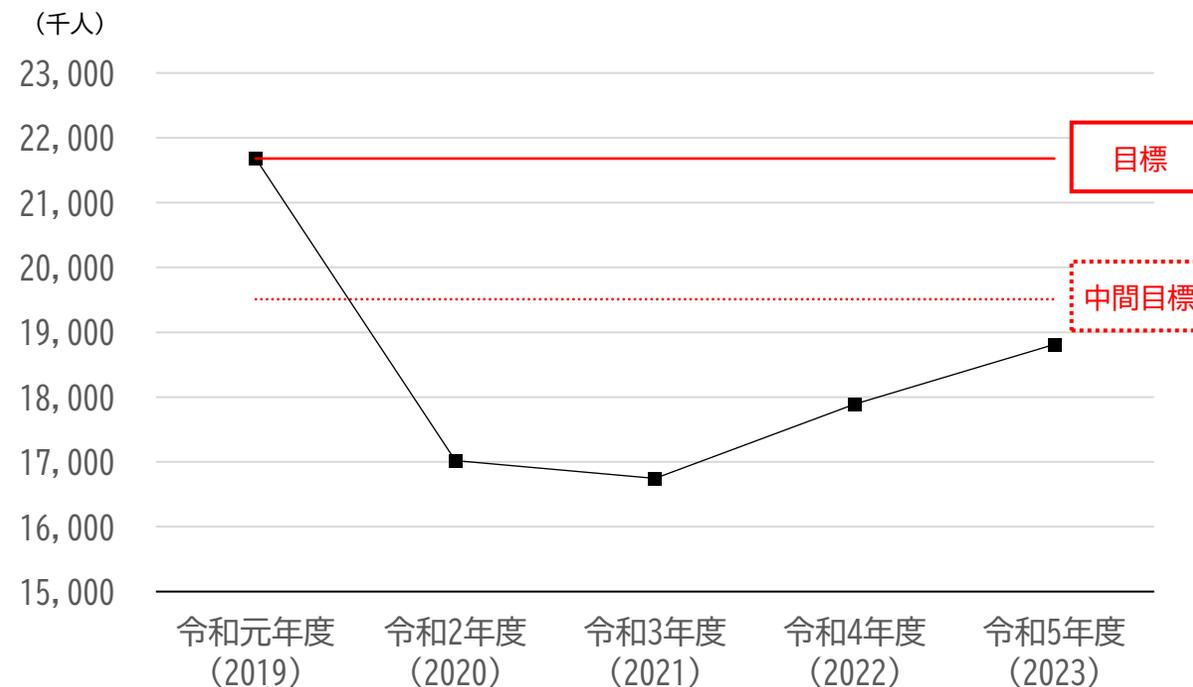
令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	中間目標値 (2026年度)
142,967 (現況値)	109,605	110,513	122,133	129,548 (実績値)	128,670 以上



## 目標2指標「バス利用者数」

(千人)

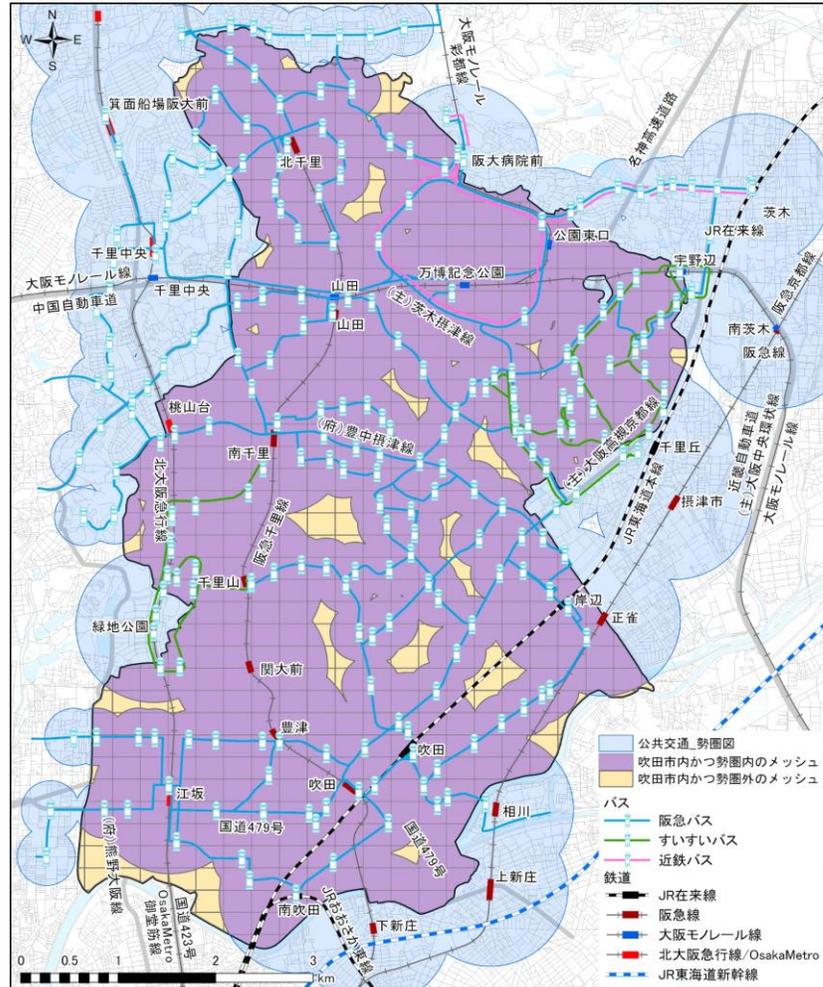
令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	中間目標値 (2026年度)
21,679 (現況値)	17,018	16,746	17,892	18,812 (実績値)	19,510 以上



# 計画の目標達成状況（実績値の詳細）

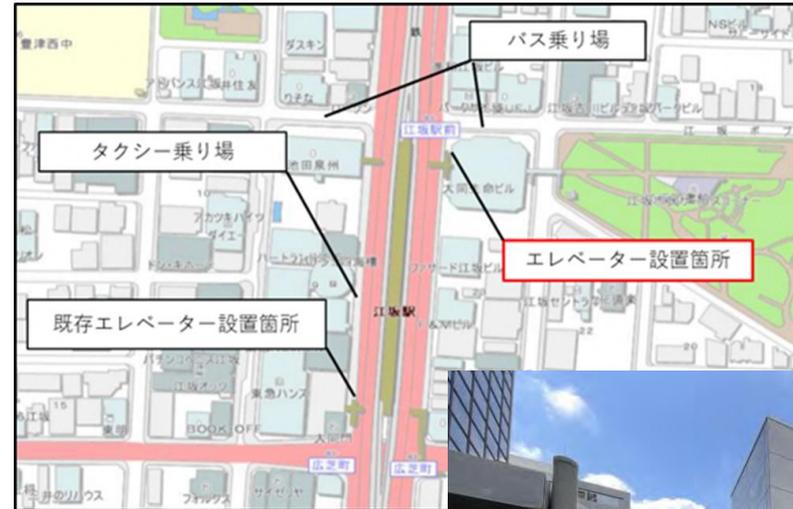
## 目標3指標「公共交通による人口カバー率」

現況値 (2019年度)	95%	実績値 (2025年度)	95.3%	中間目標値 (2026年度)	95%以上
-----------------	-----	-----------------	-------	-------------------	-------



## 目標4指標「乗換え動線のバリアフリー整備箇所数」

現況値 (2021年度)	15箇所	実績値 (2025年度)	16箇所	中間目標値 (2026年度)	16箇所
-----------------	------	-----------------	------	-------------------	------



江坂駅北口へのエレベーター設置（令和7年3月供用開始）

# 計画の目標達成状況（実績値の詳細）

## 目標5指標「バス停環境整備箇所数」

現況値 (2021年度)	138箇所	実績値 (2025年度)	171箇所	中間目標値 (2026年度)	158箇所 以上
-----------------	-------	-----------------	-------	-------------------	-------------

年度	猛暑対策補助事業 【上屋・ベンチ】	補助事業 【ベンチ】	委託事業 【上屋・ベンチ】
令和4年度 (2022年度)		高野台中学校前（西行・東行） 佐竹台五丁目（東行） 佐竹台六丁目（東行）	—
令和5年度 (2023年度)	吹田SST（西行） 紫金山公園前（西行） 津雲台七丁目（西行） 佐井寺南が丘（西行）	五月が丘（南行） 佐竹台六丁目（西行） JR岸辺駅（北口） 山田市民体育館前（東行）	—
令和6年度 (2024年度)		吹田市役所前①～④	【上屋・ベンチ】五月が丘西（西行） 紫金山公園前（東行） 【上屋】南小学校前（西行） 【ベンチ】大曽根（西行）、吹田東小学校前（東行） 吹東町（西行）、未広町（東行）
令和7年度 (2025年度)		ふじしろ幼稚園前（南行・北行） 上山手町（南行・北行）	【上屋・ベンチ】金蘭会学園前（南行） 【上屋】古江台五丁目（北行）、南小学校前（東行） 【ベンチ】吹田市立中央図書館前（東行・西行） 南清和園（西行）
合計	4箇所	16箇所	13箇所



ベンチ補助事業  
完成写真



バス停上屋  
ベンチ設置事業  
完成写真

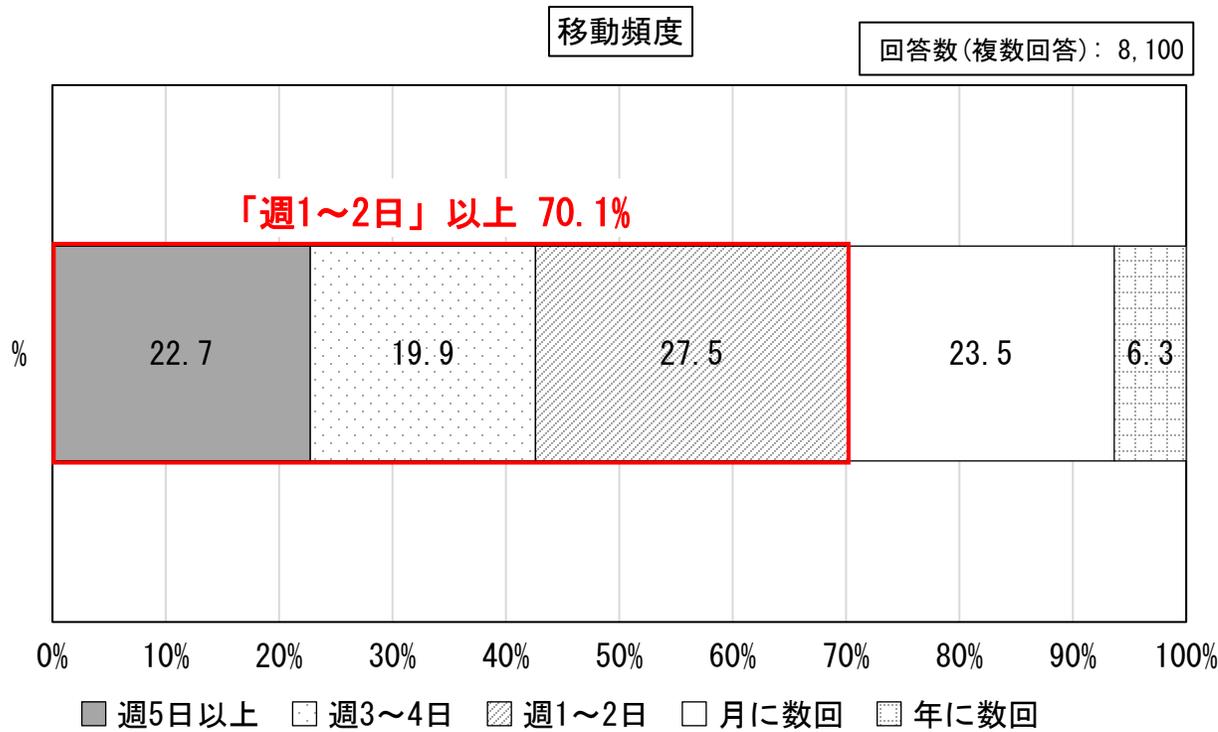


猛暑対策事業  
完成写真

# 計画の目標達成状況（実績値の詳細）

## 目標6指標1「外出頻度」

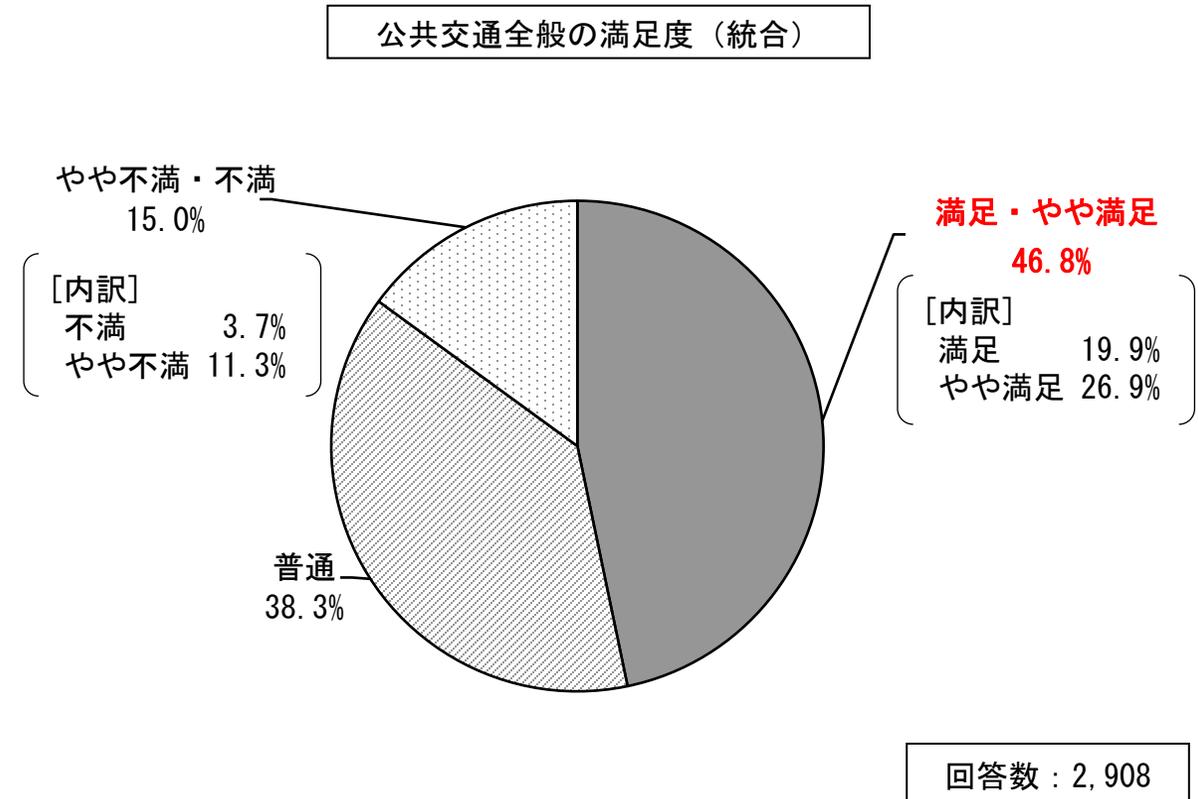
現況値 (2019年度)	67.8%	実績値 (2025年度)	70.1%	中間目標値 (2026年度)	60%以上
-----------------	-------	-----------------	-------	-------------------	-------



市民アンケート問3より

## 目標7指標「公共交通の満足度」

現況値 (2019年度)	42.0%	実績値 (2025年度)	46.8%	中間目標値 (2026年度)	45%以上
-----------------	-------	-----------------	-------	-------------------	-------



市民アンケート問20より

# 計画の目標達成状況

各指標における中間目標値のおおむねの達成を確認しました。

なお、中間目標値を下回っている指標は、目標2の指標「バス利用者数」のみとなります。

目標	指標	現況値 (2019年度)	中間目標値 (2026年度)	実績値	目標値 (2031年度)
目標1	鉄道の利用者数の向上 鉄道利用者数	14,297万人 (年間)	12,867万人 (年間)	12,955万人 (2023年度)	14,297万人 以上 (年間)
目標2	バスの利用者数の向上 バス利用者数	2,168万人 (年間)	1,951万人 (年間)	1,881万人 (2023年度)	2,168万人 以上 (年間)
目標3	公共交通ネットワークの構築 公共交通による人口カバー率	95%	95%以上	95.3%	95%以上
目標4	交通結節点の機能の向上 乗換え動線のバリアフリー整備箇所数	15箇所	16箇所	16箇所	17箇所
目標5	利用環境の安全性 快適性の向上 バス停環境整備箇所数	138箇所	158箇所以上	171箇所	178箇所以上
目標6	公共交通による 外出頻度の増加 外出頻度	67.8%	60%以上	70.1%	67.8%以上
	公共交通の分担率	52.3%	-	-	52.3%以上
目標7	公共交通の満足度 公共交通の満足度	42%	45%以上	46.8%	50%以上

# 事業の実施状況

## 事業実施状況【基本方針1：公共交通サービスの維持・充実とPRによる利用促進 関連】

事業		取り組み内容（施策）	関係者	実施状況
事業1	公共交通サービスの維持・向上	車両のバリアフリー化	(市、交)	○
		交通事業者各社の利便性や利用環境向上に向けた取り組み	(交)	○
		交通事業者各社の利便性や利用環境向上に向けた取り組み（広報）	(市)	△
		バス停環境の改善	(市、交)	○
事業2	運行情報の提供	広報誌、公共交通マップによる情報提供	(市)	○
		リアルタイムな運行情報提供 近接情報検索の継続	(交)	○
		コミュニティバスへのデジタルサイネージの導入	(市)	○
事業3	利用サービスの提案	高齢者自動車運転免許証の返納者向けのサービス → 運賃補助	(市、交)	○
		学生（小・中学生）に向けた運賃補助 → 無料券配布	(市、交)	○
事業4	安全な公共交通事業の推進	交通事業者各社の安全運転等に関する取り組み	(交)	○
		交通事業者各社の取り組みを吹田市HPに掲載	(市)	○

※実施状況の区分 ○：おおむね実施 / △：一部未実施 / ×：未実施

# 事業の実施状況

## 事業実施状況【基本方針2：市民・利用者に寄り添う利便性の高い公共交通ネットワークの形成 関連】

事業		取り組み内容（施策）	関係者	実施状況
事業5	バス路線の見直し	交通需要と供給のバランスに応じた運行の検討	(市、交)	○
		将来の公共交通ネットワークの形成及び拠点整備に合わせたバス路線の見直し	(市、交)	○
事業6	交通結節点の機能向上	自転車駐車場が不足する駅における自転車駐車場の整備推進	(市)	○
		公共交通の機能を補完するシェアサイクルの拡充	(市)	○
		自転車駐車場情報の空き状況の発信	(市)	○
		乗換え動線の更なるバリアフリー化	(市、交)	○
		鉄道駅からバス・タクシー等への乗継ぎ案内情報の充実	(市、交)	△
事業7	地域コミュニティ交通の創出	地域主体による交通手段導入のしくみ検討 → 地域コミュニティ交通導入ガイドラインの策定	(市、交、市民)	○

※実施状況の区分 ○：おおむね実施 / △：一部未実施 / ×：未実施

# 事業の実施状況

## 事業実施状況【基本方針3：共に支え、将来に向けた持続可能な仕組みづくり 関連】

	事業	取り組み内容（施策）	関係者	実施状況
事業8	公共交通の魅力の発信	Webサイト、イベント開催、ファンクラブ、啓発グッズ制作の継続	(交)	○
		教育機関との連携（モビリティマネジメント）	(市)	○
事業9	担い手の確保	各企業における人材育成、技術継承等の取り組みの継続	(交)	○
		各事業者の取り組みを吹田市HPに掲載	(市)	○
事業10	次世代交通システムの積極導入	交通事業者各社のMaas、自動運転等の取り組みの継続	(交)	○
		各事業者の取り組みを吹田市HPに掲載、関係部局との協力・連携	(市)	△

※実施状況の区分 ○：おおむね実施 / △：一部未実施 / ×：未実施

各事業における施策の**おおむねの実施を確認**しました。しかし、吹田市HPにおける情報掲載や、鉄道駅からの乗継ぎ案内充実など、広報のあり方について**一部改善が必要**であると考えています。また、**すいすいバスの運行**が取り組みとして明記されていないため対応が必要です。

# 数値データ把握及び課題との連動確認

## 課題の見直しに関する情報整理【課題①：利便性向上によるバスの利用促進】

情報区分		現況・問題点等の内容
課題①	満足度	✓ 公共交通全般に対する満足率は46.7%で不満率の15.0%を上回っている
		✓ 鉄道の満足率は不満率を大きく上回っている
		✓ 駅舎の改善点としてバリアフリー化に関する内容が挙げられる
		✓ 路線バスの <u>不満率は満足率を上回っている</u>
		✓ 路線バス利用者の不満点：運行本数・ルート等のほか、バス停環境
		✓ 利用しない方の不満点：運行本数・ルートのほか、時刻表・路線図がわかりにくい
		✓ タクシーの満足率は不満率を上回っている
✓ 利用促進策：運賃等のサービスの維持向上、待ち時間の短縮		
公的負担の考え	✓ 一定の公的負担を地域社会全体で負担し維持すべきの回答が55.3%	
利用意向	✓ 公共交通をより利用したいと回答した人が53.9%であり、また、前回の市民アンケート結果より、利便性向上により路線バスの利用が増えると回答した人が42%であった	

※2：路線バスの不満の理由として、路線バス利用者においては、運行本数・ルート、始終発時間、バス停環境に関する不満が多くなっており、路線バスを利用しない方においては、利用者と比較して、時刻表・路線図がわかりにくい不満割合が高くなっています。

# 数値データ把握及び課題との連動確認

## 課題の見直しに関する情報整理【課題②：高齢者等のモビリティの確保】

情報区分		現況・問題点等の内容
課題②	高齢者の状況	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 自動車(自分で運転)の利用割合は年齢が上がるほど減少しており、75歳以上では21%</li><li>✓ 75歳以上では40%の方が免許返納を検討</li><li>✓ 他の世代と比べて75歳以上の外出頻度は少ない</li></ul>
	ニーズ	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 公共交通の改善ニーズとして、バリアフリー化に関するものが多い</li></ul>

## 課題の見直しに関する情報整理【課題③：都市・地域拠点の機能向上】

情報区分		現況・問題点等の内容
課題③	将来都市像	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 将来都市像として都市拠点、地域拠点が設定。 万博記念公園周辺、岸辺駅周辺など特色ある拠点も設定されている</li></ul>
	ニーズ	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 万博・エキスポエリア・健都エリアへのバス利便性向上の要望</li><li>✓ 交通結節点の改善点として、鉄道・バスとの乗り換えのしやすさのほか、自転車駐車場の整備が多く挙げられる</li></ul>

# 数値データ把握及び課題との連動確認

## 課題の見直しに関する情報整理【課題④：公共交通に関する情報提供の充実】

情報区分		現況・問題点等の内容
課題④	ニーズ等	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 路線バスを利用しない方においては、運行本数・ルートのほか、時刻表や路線図がわかりにくい割合が高い</li><li>✓ タクシーにおいて、わかりやすい情報案内を求める声がある</li><li>✓ すいすいバスの認知状況では、約4割の方が存在を知らなかった</li><li>✓ 近年運行が開始された「たけのこルート」周辺の地域においても3割の方が知らなかったと回答</li></ul>

## 課題の見直しに関する情報整理【課題⑤：交通ICTの活用】

情報区分		現況・問題点等の内容
課題⑤	社会状況	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 自動運転、新たなモビリティ、MaaSといった次世代型交通システムに関する技術開発・実証実験が全国各地で積極的に進められている</li></ul>

前回アンケート結果と比較し、計画策定時から現況や問題点等の大きな変更はないことを確認しました。  
また、アンケート調査結果から、公共交通機関のうち、路線バスのみ不満率が満足率を上回っている状況を確認しました。

## 評価検証の実施について（まとめ）

事業の実施及び中間目標値はおおむね達成していますが、目標2のバス利用者数は目標値を下回っています。また市民アンケートでは路線バスのみ不満率が満足率を上回っています。以上の評価検証結果を踏まえ、計画の見直しに向けて、以下の対応を図る必要があります。

- ✓ 路線バスの **利用促進・利便性向上** を中心に更なる施策の推進を図る。
- ✓ 吹田市における情報提供・広報のあり方を改善する。

〔事業レベル  
の改善〕

また、本市の公共交通ネットワークを補完する「すいすいバス」を計画へ位置づけます。

区分	評価検証から得られた内容
目標達成状況	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 各指標における中間目標値のおおむねの達成を確認。</li><li>✓ 目標2の指標「バス利用者数」が中間目標値を達成していない。</li><li>✓ すいすいバスに関する指標設定が必要である。</li></ul>
事業実施状況	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 施策のおおむねの実施を確認。</li><li>✓ 吹田市HPにおける情報掲載など、広報のあり方について改善が必要である。</li><li>✓ すいすいバスの運行を計画に明記する必要がある。</li></ul>
課題見直し (現況整理)	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 計画策定時から現況や問題点等の大きな変更はないことを確認。</li><li>✓ アンケート調査結果から、公共交通機関のうち、路線バスのみ不満率が満足率を上回っている状況を確認した。</li></ul>

# 計画見直しの方向性について

本市では、市民・交通事業者・行政が共に支える、持続可能で利便性の高い公共交通ネットワークの実現を目的として、計画に示した事業を推進してきました。取り組みは一定の成果を上げているものの、検証結果等を踏まえると、目的・目標の実現に向けては未だ途上にあります。このため、今回の見直しでは、**基本理念や基本方針は現在の内容を継承しつつ、取り組み事業を中心に必要な見直しを実施**します。

見直し要点の区分	見直し概要
課題まとめ	✓ 検証結果のとおり、現況や問題点等の大きな変化がないため、数値の更新等を行う。
基本理念・基本方針	✓ 引き続き取り組みを進めていく必要があるため、大きな <b>変更なし</b> 。
地域公共交通ネットワークの将来イメージ	✓ すいすいバスだけのルートを追加する。 ✓ 廃止路線を反映する。
計画の目標	✓ 目標2に新たに「すいすいバスに関する指標」を設定する。 ✓ その他、軽微な語句修正を行う。
実施事業	✓ 施策についてはおおむね現行維持とする。 ✓ 「すいすいバス」の運行を取り組みに明記する。 ✓ 路線バス等の利用促進・利便性向上や担い手確保に向け、情報・魅力発信の充実化等を図る。

# 計画見直しの方向性について

## 基本理念及び基本方針

本市における公共交通の現状等を踏まえ、計画策定時の基本理念・基本方針を継承します。

### ■ 基本理念

いまある公共交通を守り、多様な手段と連携し、  
みんなで支え未来へつなぐ公共交通

### ■ 基本方針

方針1

公共交通サービスの維持・充実と  
PRによる利用促進

方針2

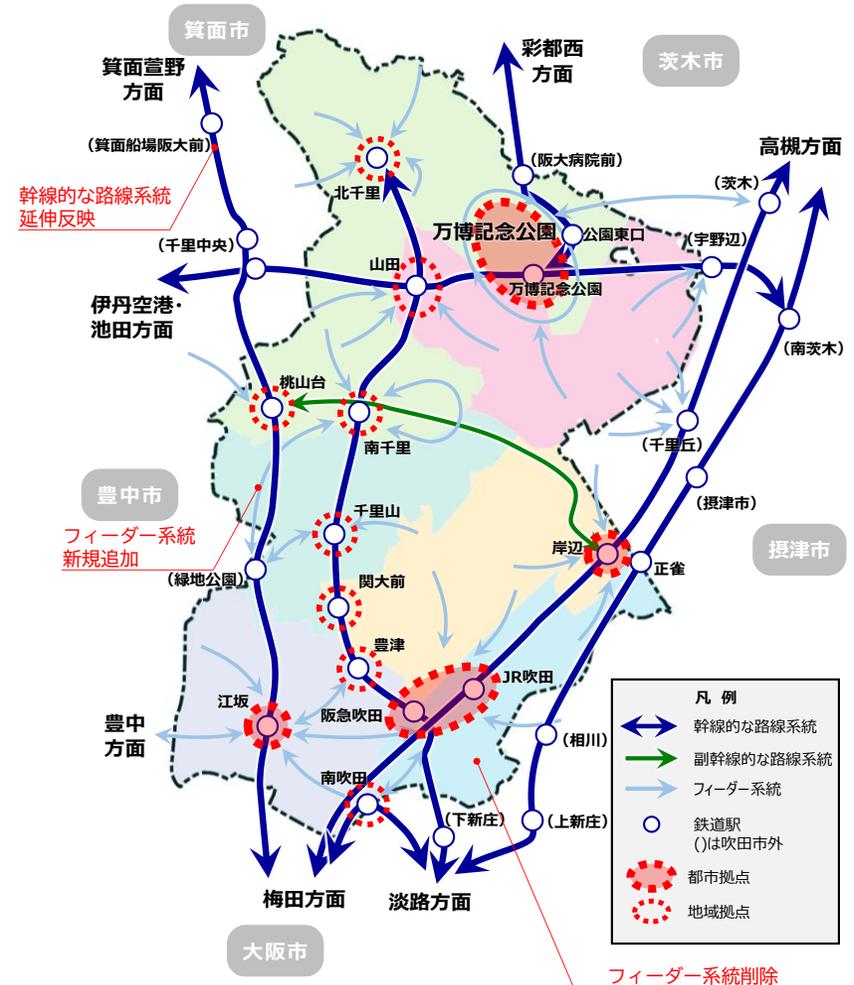
市民・利用者に寄り添う  
利便性の高い公共交通ネットワークの形成

方針3

共に支え、将来に向けた持続可能な仕組み  
づくり

## 地域公共交通ネットワークの将来イメージ

すいすいバスだけのこのルートの追加や京阪バスの撤退、北大阪急行の延伸を反映した将来イメージ図の変更を行います。



# 計画見直しの方向性について

## 計画の目標

目標2の指標として、新たに「すいすいバスの利用者数」を設定します。

### 目標2：バスの利用者数の向上

吹田市と交通事業者との連携による公共交通サービスの維持・向上に向けた取組みを継続的に実施し、バスの年間利用者数の維持、向上を目指します。しかし、新型コロナウイルス感染症に伴う生活様式の変化によって、従来の利用数が見込めないことも考えられます。そこで、当面は利用者の取り戻しを図りつつ、利用者数の維持を目指します。

#### ■ 指標の設定・算定方法

・バスの利用者数を指標とし、毎年各交通事業者の統計値および市が運営するすいすいバスの統計値により把握します。

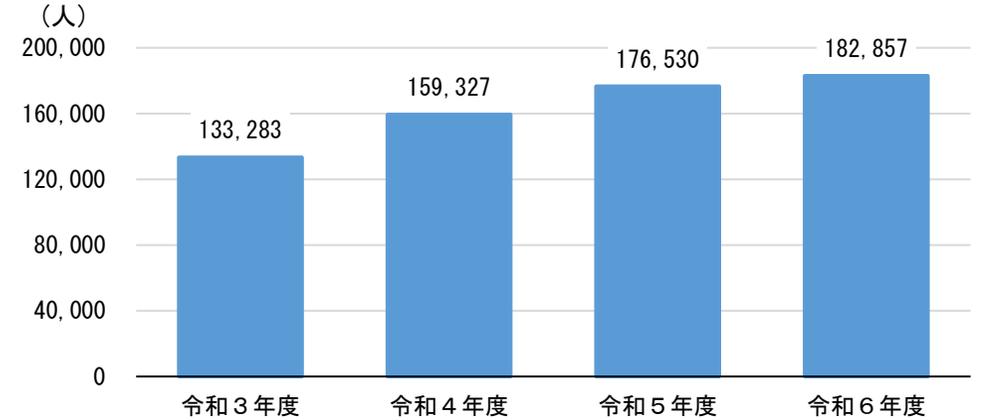
#### ■ 目標の設定

- ・現況値は新型コロナウイルス感染症流行前の2019年度の統計値とします。
- ・5年目は利用者の取り戻しを図り、現況値の9割までの回復を目標とします。
- ・10年目は生活様式の変化による減少や横ばい傾向が考えられますが、吹田市の人口は2030年まで増加する見込みがあることを考え、現況値まで戻すことを目標とします。

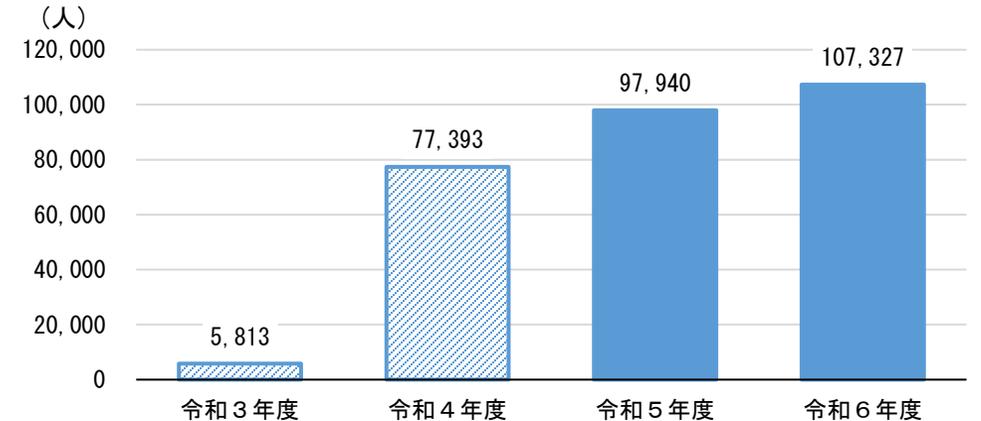
	現況 (2019年度)	中間目標 (2026年度)	目標 (2031年度)
民間路線バス利用者数	2,168万人/年	1,951万人/年 以上	2,168万人/年 以上

・コミュニティバスの利用者数については、現状のサービス水準および利用実態を踏まえ、令和5・6・7年度の利用者数の平均値から目標値の設定を行います。

	現況 (2025年度)	中間目標	目標 (2031年度)
すいすいバスの利用者数 (千里丘地区)	新たに整理	—	現況値以上
すいすいバスの利用者数 (千里山地区)	新たに整理	—	現況値以上



図：利用者の状況（千里丘地区）



図：利用者の状況（千里山地区）

※斜線部は試験運行期間を示す。

# 計画見直しの方向性について

赤字：取組の加速・見直し、青字：記載内容の追記・修正

## 実施事業

基本方針・事業		現行取り組み内容	見直し案	関係者
基本方針1：公共交通サービスの維持・充実とPRによる利用促進				
事業1	公共交通サービスの維持・向上	車両のバリアフリー化	【継続】	市、交
		交通事業者各社の利便性や利用環境向上に向けた取組み	【継続】	交
		交通事業者各社の利便性や利用環境向上に向けた取組み（広報）	交通事業者各社の利便性や利用環境向上に向けた取組み（広報）	市
		バス停環境の改善	【継続】	市、交
			コミュニティバス「すいすいバス」の運行	市
事業2	運行情報の提供	広報誌、公共交通マップによる情報提供	【継続】	市
		リアルタイムな運行情報提供 近接情報検索の継続	【継続】	交
		コミュニティバスへのデジタルサイネージの導入	コミュニティバスへのデジタルサイネージの運用	市
事業3	利用サービスの提案	高齢者自動車運転免許証の返納者向けのサービス	高齢者自動車運転免許証の返納者向けのサービス	市、交
		学生（小・中学生）に向けた運賃補助	【継続】	市、交
事業4	安全な公共交通事業の推進	交通事業者各社の安全運転等に関する取組み	【継続】	交
		交通事業者各社の取組みを吹田市HPに掲載	交通事業者各社の取組みを吹田市HPに掲載	市
基本方針2：市民・利用者に寄り添う利便性の高い公共交通ネットワークの形成				
事業5	バス路線の見直し	交通需要と供給のバランスに応じた運行の検討	【継続】	市、交
		将来の公共交通ネットワークの形成及び拠点整備に合わせたバス路線の見直し	【継続】	市、交
事業6	交通結節点の機能向上	自転車駐車が不足する駅における自転車駐車場の整備推進	【継続】	市
		公共交通の機能を補完するシェアサイクルの拡充	【継続】	市
		自転車駐車場情報の空き状況の発信	【継続】	市
		乗換え動線の更なるバリアフリー化	【継続】	市、交
		鉄道駅からバス・タクシー等への乗継ぎ案内情報の充実	鉄道駅からバス・タクシー等への乗継ぎ案内情報の充実	市、交
事業7	地域コミュニティ交通の創出	地域主体による交通手段導入のしくみ検討	【継続】	市、交、市民
基本方針3：共に支え、将来に向けた持続可能な仕組みづくり				
事業8	公共交通の魅力の発信	Webサイト、イベント開催、ファンクラブ、啓発グッズ制作の継続	【継続】	交
		教育機関との連携（モビリティマネジメント）	教育機関との連携（モビリティマネジメント）	市
事業9	担い手の確保	各企業における人材育成、技術継承等の取組みの継続	【継続】	交
		各事業者の取組みを吹田市HPに掲載	担い手確保のための取組みの支援	市
事業10	次世代交通システムの積極導入	交通事業者各社のMaas、自動運転等の取組みの継続	【継続】	交
		各事業者の取組みを吹田市HPに掲載、関係部局との協力・連携	各事業者の取組みを吹田市HPに掲載、関係部局との協力・連携	市